



さあ～ 東北でベンチャーを始めよう

震災後のさくらは一段と輝いた感じがしましたが、桜が散って5月の連休で訪れた長野県の野山の新緑は何故だか浮き浮きするほど輝いていました。

震災の影響はまだ、復興需要まで見えてこず、震災を受けた東北の部品工場の復旧や不足している部品の手当てで右往左往している状況なのではないでしょうか？

私はかねがねベンチャービジネスは世の中のシステムの変化をトリガー（引き金）として生まれると信じてきました。例えば少子高齢化により、何社かの介護ベンチャーが生まれました。

この度、東北地方を襲った東日本大震災により、新しいベンチャーが生まれませんか、考えて見ましょう。この度の大震災により、この五年以内に何兆円もの資金がこの地区、いやそれに関連して、日本国内に投下されます。つまり、新しい莫大な投資が生まれるのです。でも、その投資はただの復旧投資であってはなりません。従来存在した道路、鉄道、上下水道、通信網などインフラから変えていかなければなりません。それだけではありません。生き方から提案していかなければならないのです。

あの地区は65歳以上の高齢者の割合が30%を越えています。そして農業や漁業の就業者が大半です。また、将来起こるであろう大地震にも備えなければなりません。将来を見越した産業のあり方、つまり環境、省エネ、医療、行政など新しい提案が必要です。しかも、大勢の方が現在、再建を待って避難地に不便な生活を余儀なくされておられます。何よりも、スピードが求められます。

また、多くの方が職を失い新しい仕事を求めています。

ビジネスの要件、「人、もの、金」があるのです。

戦後、わが国は敗戦で何も無くなりました。あの時、人は外地より兵隊さんが大勢帰って来ましたが、「もの、金」はありませんでした。でも現存する大企業はほとんどあのころ生まれています。ほとんどゼロからベンチャーをはじめたのです。

このたびの震災復興には大企業の仕組みでは、間に合いません。新しい考えによる問題解決と何より小廻りとスピードを合わせ持つベンチャーが求められています。

大企業が生産する鉄骨や木材などの建材は当然必要でしょうが、新しいコンセプトの基に企業化精神旺盛なベンチャーが求められています。

今、その時です。ピンチがチャンスです。さあ、立ち上げましょう若きベンチャーを。

関西VECも及ばずながら応援します。



財) ベンチャーエンタープライズセンター
関西支部長 本田 英行

介護ヘルパーの 原発ってなんや？

二年前に引退。老々介護と孫守りに毎日ヘトヘトですわ。4月12日、のっぴきならぬ用事で久しぶりにシャバに出ましたんや。懐かしのVECにちょっと寄り道。恩人から「土産や、ひとつは栓抜きやで・・・」「え、カンボジアに行っただんですか？ 懲りんと、まあ・・・」「原稿書いてや！」「え？ もう筆折りましたがな・・・」。もうひとつの土産が妙に気になりましてな、後日問い合わせましたんや。「これ、何に使いますのん、ようわからんけど？」「まあ、適当に使ったらええがな。・・・それより原稿、まだかいな？ 土産受け取ったやろ、ええ加減に諦めてや！」「え、え、そんなアホな・・・」。

ニュースに気が滅入ってます。何とかならんかいな？ それにしても原発って、ようわからんわ。・・・という次第で、ちょっと整理してみました。表がそれですわ。

【原発の原理】

真面目な説明。簡単にいえば、火力発電と一緒で、水を沸騰させ、タービン・発電機を回して電気を起こします。濃縮ウラン（ウラン235）を核分裂させると、大量の熱が発生しますが、それが熱源。ウラン235の1グラムで、石炭3トン、石油2千リットル分に匹敵するため、夢のエネルギーとまで言われました。

【原子炉の種類】

大雑把な説明。使用する水の違い（重水が軽水）で、重水炉、軽水炉に分かれます。軽水とは普通の水です。重水は自然界にわずしかないので高価です。軽水炉が主流に。軽水炉も「沸騰型」と「加圧型」に分かれます。「沸騰型（BWR=Boiling Water Reactor）」は核分裂から生じた蒸気が、そのままタービンに送られます。

構造はシンプルですが、蒸気に放射性物質が含まれたまま。「加圧型（PWR=Pressurized Water Reactor）」は、タービンに送られる蒸気は区別されているため、配管など構造がより複雑になります。潜水艦や航空母艦にも使用されています。（以上、電気事業連合会の資料を参考）

【安全論争】

電源喪失への備え、配管等の耐震性、構造上の課題が指摘されています。論争は津波、地震が起こった際の電源喪失問題に終始。が、巨大な再循環ポンプも含めた内部構造、特に配管（溶接も含め）への負荷の大きさも指摘され始めました。事故のあった原子炉が、GE製のMARK1であったことも論議に。その後に改良されたMARK2、3に比べ、コンパクトであり、無理な構造でなかったか等々。

【エネルギー問題】

原発に依存することは是非が問われています。さすがにドンドン進めましようという意見は小さくなりましたが、・・・ただ、どうすればいいのでしょうか？ 個人的な意見です。デンマークやドイツの事例を詳しく知りたいものです。デンマークは、石油危機以前は一次エネルギー（石油も含め）の自給率は1.5%でした。20年後には自給率を54.2%に高めながら経済成長を成し遂げました。ドイツは自然エネルギーの比率を高めています。日本が得意としていた太陽光発電も、いつのまにか追い抜かれて。資産運用と同じ、リスク分散が常道でしょう。

日本列島が歪んでいるとか。

無神論者ですが、祈り続ける日々を過ごしております。（4月18日記）

介護ヘルパー（元・ベンチャーキャピタリスト） 羽世田 鉦四郎

	黒鉛減速ガス冷却炉	黒鉛減速炉	重水炉	軽水炉(加圧型) Pressurized Water Reactor	軽水炉(沸騰型) Boiling Water Reactor
原子炉の中	コールドジャーホール	黒鉛減速炉	重水炉	軽水炉(加圧型)	軽水炉(沸騰型)
核燃料	天然ウラン(金属)	ウラン(金属)	磁器ウランMOX 天然ウラン	磁器ウラン(酸化ウラン)	磁器ウラン(酸化ウラン)
核反応の減速材	黒鉛	黒鉛	重水	水	水
冷却材	二酸化炭素	水	重水	水	水
制御棒	ホウ素材	ホウ素材	ホウ素材	ホウ素材	ホウ素材
構造材	マグネシウム等	鉄など	ジルコニウムなど	ジルコニウムなど	ジルコニウムなど
備考	取り出せるエネルギーが少ない	天然ウラン(濃縮なし) 経済性を重視 チェルノブイリ	天然ウランが使えるが重水が高価。 *カナダ、韓国で商用炉CANDUが稼働。日本の「ふげん」。 *重水は天然水に微量しか存在せず(0.015574%) *重水の濃度管理が困難	沸騰により気泡が出ないよう加圧。潜水艦や空母用にも開発。放射能が漏れにくい分、配管に負担。 ・世界の主流 ・日本は三菱重工 ・関西電力、北海道電力、四国電力、九州電力	GEが開発。沸騰すると核反応が起きにくい分安全性が高い。構造はシンプルだが、放射能を含む蒸気でタービンを回すため放射能汚染を起こしやすい。 ・日本は東芝 日立 ・東京電力、東北電力、中部電力、北陸電力、中国電力

* 電機事業連合会などの資料を参考に作成

VEC交流会の効用と東日本大震災の復興

皆さんが毎月参加しているVECの交流会にはいつも多方面の講師が来てくれるが、どのような効用があるのか検討したい。専門用語で「最小有効多様性」というが、グローバル化や東日本大震災などのめまぐるしい環境の動きに適応するためには、企業はそれに多様に対応する組織を持つことが重要になってきた。そのためには、今までのように自社の内部のみで築いてきたシステムの境界を破って外界の他者とうまくつながり、お互いに持ち合わせない諸能力を利用しながらともに生き延びる賢い仕組みを考える必要性がでてきた。

社内の個人や組織などを今のままで残したままで、外部の個人や組織とリンクしあい、個々の不足や欠陥を補う情報、能力、資源を交換し、互恵的にふるまうことで、双方とも成功裏に生存してゆくには、VEC交流会はその助けとなる。

社内での、規則的な密接な関係をネットワーク理論では「近所づきあい」と呼ぶがこれでは情報や資源に限られ激しい変化に対応できにくい。

「近所づきあい」の枠を超えて、遠くの人とつながることを「遠距離交際」（リワイヤリング）と呼ぶが、VEC交流会はこのリワイヤリングの典型である。なぜリワイヤリングがよいかといえば、通常のネットワークを越えたバイパスを通じて、新鮮な冗長性のない情報や仕事が飛び込むからで、これを効率よく元々のネットワークの各所に流すことができる。

最近東日本大震災の復興が話題になっているが、このリワイヤリング効果を示した有名な事例としては1997年におきたアイシン精機工場の火災事故がある。当時トヨタ車に使うブレーキ関連部品はアイシン精機の工場で作られておらず、この火災事故によりマスコミはトヨタのジャストイン生産方式の脆弱さを指摘して、復興には数ヶ月から半年はかかることを報道していた。しかし原状回復は、わずか10日間で成し遂げられ常識を覆す奇跡的なことが起こった。その秘密は「トヨタの自主研」というトヨタの生産方式を研究する異業種交流会のネットワーク間でリワイヤリング効果が有効に発揮されたためである。

唯一のブレーキ関連部品用の専用工場が機能不全になりアイシン精機では手の打ちようがなかったが、トヨタの生産方式を研究する異業種交流会である「トヨタ自主研」に属するメンバーが自発的にブレーキ関連部品をどうすれば製造できるかを情報交換しお互いに思わぬ知恵をだしあった。その結果彼らが自分たちで所有している汎用機や金型を使いお互いに協力することで何とか製造できることが分かり、自動車以外のミシン部品製造会社を含む63社が自発的に製造し、この火災危機をわずか短期間で危機を乗り越えた。

太成学院大学 教授 釣島平三郎

チャレンジャー&ベンチャー 二足の草鞋



早いもので大学卒業以来47年、69歳の高齢者となった現在、私はマンドリンアンサンブル「本町マンドリン倶楽部」のギター奏者と、企業経営者にとって最優先課題である「経費削減コンサルタント」の二足の草鞋を履くことになった。

話は昔に戻るが、大学ではマンドリン倶楽部の一員として毎年の定期演奏会、春・夏の全学年合同合宿練習、その練習の成果発表として九州・北海道への演奏旅行と、ハードな演奏活動で大学生活は大半がクラブ活動中心であった。が、その集大成として昭和38年10月全日本大学マンドリン連盟主催で、作曲家・指揮者の服部正先生（故人）を団長として、全国の大学選抜総勢30名で1ヶ月間のハワイ・アメリカ西海岸の演奏旅行を実施することになり運よくそのメンバーに参加することになった。演奏会は各大会館を初め、各都市の音楽ホールで開催され大盛況で意気揚々と帰国したものでした。

ところが、翌年39年4月に新社会人として希望に満ち溢れS銀行に入行するや、「新規取引先の開拓」との業務命令の下に、日夜ひたすらに営業活動に邁進し音楽とは全く無縁の生活に突入してしまいました。そのハードな営業活動の最中突然クレジットカード会社に出向を命じられ銀行の活動と同じ新規法人の獲得を、との事でした。当時クレジットカード会社は設立後間もなくで、これといったノウハウもなく銀行員の営業に「オンブにダッコ」でした。私は法人新規先の開拓の為にツールとして「法人クレジットカード」を企業の役職員の接待・交際費支払い時に徹底して活用、更には交通費・社内の公共料金等にも拡大し法人カード支払いにより経費の明確化・無駄な経費支払いの減少を提案して大いに成果を上げる事が出来ました。この事が後に「企業のコスト削減」をサポートするきっかけになったと考えます。

カード会社に出向することによって仕事も心にも余裕が出来る、ふと頭をよぎるのは学生時代の演奏会の風景でした。カーテンコールの拍手は感激を通り越したものでした。年齢も還暦を過ぎた頃、当時のマンドリン倶楽部の仲間からアンサンブルをやらなにかと相談があり、二つ返事で承諾しました。メンバーは当時の仲間8名で全員同級生、還暦を過ぎた「おじんとおばん」で、まるで初心者のような船出でした。今ではレパートリーも増え、国内外の唱歌・マンドリンの本場イタリア民謡・ロシア民謡と多彩に演奏をこなしています。活動は主として老人ホーム・各種介護施設・チャリティーコンサートと、依頼があればどこにでも出かけています。

演奏の途中や演奏後に感謝の涙を浮かべられ、合唱では大きな声で一杯歌っていただく姿を見れば、来てよかったと思う事ばかりです。

一方長年の勤務は平成22年3月に無事終了し、今後は音楽一本でと考えましたが、音楽と同様に経費削減が達成できた時の経営者の喜ぶ顔が忘れられず、平成22年4月に個人事業者「エス・エヌ・コーポレーション」を立ち上げ「経費削減のコンサルタント」として独立致しました。

間接購買費用の平均20%を削減可能な、電子入札方式→リバースオークションの導入です。来年には古希になります。今後とも「マンドリン音楽と経費削減」の二足の草鞋を履き、心の安らぎと、更なる経営の発展に少しでもお役にたてる「エス・エヌ・コーポレーション」として老骨砕身、頑張るつもりです。

HP:「本町倶楽部 本町会 HMC」

エス・エヌ・コーポレーション 代表者 中島 省三
TEL080-3100-3508



「どげんがせにゃならん」ニッポン

確か中学生の頃だったと記憶するが、学校の先生がお話してくれた。

これから30年もすれば石油資源が無くなってしまふ、世の中大変なことになるだろう。特に日本は大変だ。原子力エネルギーの開発が不可欠なのだ。～当時の常識であった。ところが現実はどうであったか。半世紀以上もたった今でも日産8200万バレルという大量の石油が産出されているではないか。世間の常識とは可笑しいですね。

常識で思い出したが、福島原子力発電所の事故で調査のため構内に入ることが出来ずアメリカからロボットを借りたという報道があった。ロボット大国日本ということで、さすが日本だと思っていたが、なんのことはない！ガッカリ。日本の原子力発電は絶対安全だと言われてきたが、これもガッカリ。

話しは戻りますが石油の件だが、もうそろそろ涸渇するだろう。中国・インドなど新興国の需要拡大は半端じゃない。石油価格は正に鰻登りの状況だ。もうガソリン車には乗れない。

エネルギー消費対G.D.P比率でみると、日本を100とすれば中国で4.6倍、インドで4.8倍というデータがある。省エネの努力は進めているようだが、エネルギーの需要は爆発的でさらに加速的に拡大するものと考えて良い。

水から石炭、石炭から石油、石油から原子力へとエネルギーの転換が進んで来たが、こと原子力エネルギーについては、チェルノブイリ、スリーマイル島、そして今回の福島原発で人類は多くのことを学んだ。早く、そして強力に太陽光発電・風力発電など自然エネルギーの技術開発が求められる。

新築物件（住宅・ビル）はすべてソーラーパネルの設置を義務付けること、既存物件については10年以内に設置することなど、すぐに法制化すべきだ。

しっかり補助金を出してやるべきだ。後進国で、どこの国か忘れたが、すべての住宅の屋根に温水器の設置を義務付けている国がある。やる気があれば日本は出来る。

同時進行的に蓄電技術の開発が求められる。年間消費量の1年、2年分の大容量のものを目標としたい。蓄電の技術はあるのだから出来る。大規模太陽光発電が何故出来ないのか。パソコン・ケイタイ・ipadなど通信・情報の技術は目を見張るものがある。蓄電技術はまだまだの感である。日本国を挙げて、VECを挙げての技術開発が求められる。

バレル300ドル、あるいは500ドルになったら革新的な技術が生まれるかも。原子力エネルギーはあくまでも「つなぎ」のエネルギーと考えるべきだろう。

日本国民は能力が高いと言われているが活かされていない。

戦後65年も経って憲法も変えられないこの国のシステムに何か大きな問題があるんだろうなあ。

～後期高齢者のつぶやき～・・・おわり。

有限会社エス・ブイ総合研究所 代表取締役 山口 義彦

～VEC関西より～

◆今月号は東日本大震災に関連して、エネルギーの話がてんこもりでした。わが国は原発技術は非常に高度で今後世界中の国に採用頂き外貨を稼がなくてはなりません。将来の化石燃料枯渇問題も踏まえて、ここでもう一度安全性を第一に考えた設計の見直しをして改めてストップしている原発に「GO！」をかけるべきではないでしょうか。菅総理頼みマッセ！
(本田)

♥先日J R大阪三越伊勢丹のプレオープン行って来ました。大阪駅に入ったとたん長蛇の列！ゆっくり見る間もなく最上階へと、映画館と庭園があり一番落着く場所でした。屋上にコンビニがあるのにはビックリしました。
(藤本)

♣今月はシニアで現役の方、セミ現役の方にパワフルなメッセージを頂きました。これからはシニアによる社会貢献と活躍がますます必要な時代になりそうです。
(澤村)

◆<交流会>

平成23年7月5日(火) 近畿経済産業局 資源エネルギー環境部
エネルギー対策課長 埴岡 公孝 様

☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております！